

似島ホタルの里通信

vol. 9



も く じ

平成26年度二ノシマボタルを育てる里人の会活動報告・・・	2
平成26年度ホタル観察会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ホタルくいず・解説・・・・・・・・・・・・・・・・	4～5
似島を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・	6～7
参加者の声・二ノシマボタルを育てる里人の会会員募集・・・	8

表紙写真提供：嘉陽礼文 さん

発行：平成27年3月27日

発行者：南区魅力発見委員会

（二ノシマボタルを育てる里人の会）

〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目5番44号

南区役所市民部地域起こし推進課

電話(082)250-8935 FAX(082)252-7179

E-mail mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

似島米のできるまで



4月
田の荒起こしと
しろかき



腰が痛いよ

みんな
で
田
植
え



だいふ
倒れとるの

9月28日(日)
稲刈り・はぜかけ



肥料やつらんの
ようにできとる



鳥さんたちに
食べられることなく
しつかり乾燥...



湯水まで稲を
持つて行って
脱穀しました。



私の品種は
「ひとめぼれ」
似島米のできあがり

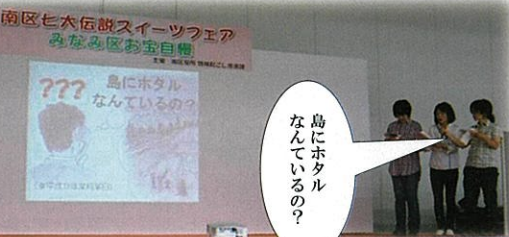
4月27日(日)
除草作業



ホタルの餌、
サカマキガイじゃ

何が
見えるの？

5月18日(日)
田植え



南区七次伝説スイーツフェア
みなみ区お宝自慢
島にホタル
なんているの？

島にホタル
なんているの？

7月13日、広島県立産業会館で催された「南区七次伝説スイーツフェア&みなみ区お宝自慢」で、ニノシマボタルと里人の会の活動を紹介します。



耕うん機は
まかせて！



ちゃんと芽が
出ますように...

10月26日(日)
畑に麦まき&収穫祭



自然の中での
食事は
うまいっ！



掲示板、
リニューアル
しました！

11月30日(日)
鑑賞エリアに
土砂搬入



機械の
ありがたさを
痛感しました！



こりやあ
重たいの！

ヒメボタルの巻

平成26年6月7日(土)～8日(日)

【1日目】

- 9:20 広島港 出発
10:50 似島臨海少年自然の家着
オリエンテーション後、活動開始！
ホタル池の周辺整備
稲がしっかり育っています



麦を収穫



自然観察 (広島県環境保全協会／上田さん)



19:30 星座観察&ホタルの勉強会



(広島天文協会／石原さん)

(里人／新枝さん)

21:00 ホタル観察

飛翔数

およそ700匹

【2日目】

10:00 海辺の生物観察 (ひろしま生きた自然博物館／畑さん)



12:00 にのしまランチ



13:00 反省会

15:10 広島港 着



平成26年度ホタル観察会報告

ヘイケボタルの巻

平成26年7月12日(土)～13日(日)

【1日目】

- 14:00 広島港 出発
家下棧橋着
似島公民館でオリエンテーション
麦の脱穀 にのしま夕食づくり



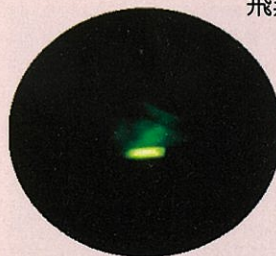
19:00 夕食

20:00 似島臨海少年自然の家からホタル池へ

20:45 ホタル観察

飛翔数

およそ70匹



22:00 集会所で情報交換会

【2日目】

8:00 にのしま朝食



9:00 似島(家下棧橋) 発

9:20 広島港 着



たくさんのホタルに会えたよ！平成26年6月7日(土)～8日(日)

Q10 「ニノシマボタルを育てる里人」
には、だれでもなれる？

似島を知ろう

似島に咲く花 キ リ

さわやかな風が頬に心地よい、4月下旬から5月初旬、広島市立似島中学校の校庭横「慰霊の広場」の片隅や、同似島中学校正門の道沿いに、すらりと高い木のてっぺんに、薄紫色の大輪の花が鈴なりに咲いています。まさに天女が舞い降りて、ワルツを踊っているかのようです。その姿は楚々として、気品に溢れ、観る者を釘づけにせずにはおきません。

およそ50年前、私が中学生の時でした。島民が多く住む家下西地域のH別荘の中にキリの木がありました。門を入ると左手が農園になっていて、隣家との境にキリが並んで植えられていました。周りを圧倒するような高い木だったと記憶しています。

(向江 菊)



「慰霊の広場」に咲いたキリの花

俳句コーナー

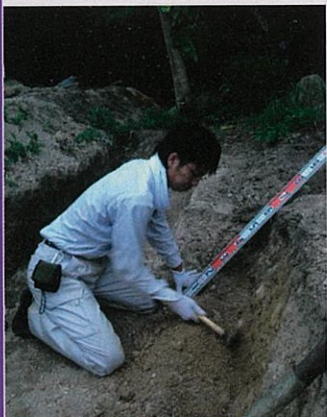
聖人の 生れ代りか 桐の花	(夏目 漱石)	花桐や 二条わたりの 夕月夜	(内藤 鳴雪)
殿づくり ならびてゆゑし 桐のはな	(宝井 其角)	花桐の 琴屋を待てば 下駄屋かな	(正岡 子規)
桐の花 一しなありし 木立哉	(椎本 才麿)	桐の花 日かげをなすに いたらざる	(高浜 虚子)

【キリ】ノウゼンカズラ科キリ属の落葉高木。古くから各地に見られ、自生のももある。幹は成長が早く、直立して高さ8~15m、直径30~50cmになる。樹皮は灰白色で皮目が多い。葉は対生し、長さ10~20cmの広卵形である。5月頃、枝先に長さ5~6cmの大きな薄紫色の花をつける。がくは5裂し、褐色の毛を持つ。材質は上質で、庭木、建築資材、家具、器具、楽器、彫刻材、下駄、薪炭など用途は広い。北海道以外の本州、九州に分布する。

山と溪谷社「日本の樹木」参照

似島を知ろう

平成26年度似島馬匹検疫所跡地にての原爆死没者御遺骨御遺品発掘作業



平成26年5月2日~7月30日までの間に、似島中学校の近くにある旧陸軍の馬匹検疫施設跡地（現 慰霊の広場横）にて、原爆死没者の御遺骨御遺品発掘作業を行いました。発掘場所は国有地であり、一時借り受けの手続きを踏んで、実質は2か月間の発掘でした。現在は平和を祈るお花畑になっている場所の隣地ですが、数メートル隣で10年ほど前に平田会長と住田さん御兄弟の手により80柱以上もの人骨が発掘されたということを知り、今回は土を掘る前から緊張の連続でした。実際、時々様子を見に来て下さる似島中学校の濱西校長先生や上田教頭先生、郷土史家の宮崎さんや島の方々や報道陣がおられない時には、炎天下での孤独な土掘り作業の連続でした。しかしながら、不思議と誰かがいつも一緒に居てくれているような温かな感覚がありました。作業日の朝には、家下港に到着した後、平田商店にて菊の花とお弁当をいつもお世話になっており、自転車を押して山を越え、作業の開始前にはいつもこの地に埋められてしまった方々の御霊にお花をお供えさせて頂くことから1日の作業が始まりました。お線香は火災の危険があるので発掘初日と永瀬校長先生はじめ似島小学校の皆さんがお参りに来られた時のみ焚かせて頂きました。御遺品を発掘するたびに、原爆の数千度の熱線によって身体に大やけどを負われ、似島の地へと運ばれ、治療の甲斐なく没された方々のお苦しい思いとは、いかばかりに深く、どれほどに御無念でいらしかったことかと涙が出ることが何度もありました。7月の埋め戻し作業には南区地域起こし推進課の皆様が炎天下の中を何日間も繰出でお手伝いして下さい、大変に御助力を頂きました。

自然の豊かさに癒されながらの作業でもありました。5月の初め、発掘作業を始める頃には桐の木に青い花がたわわに咲いており、日が昇る前の涼しい午前中には、花の蜜か花粉を集めにクマバチが大きな音を出して旋回していましたが、刺されることはまったくありませんでした。桐の花が終わった頃にはキジがよく出没し、赤い頭頂と緑色のとても美しい羽根を間近で観察することができました。道路上では赤い蟹をキジがついばんで食べている光景を見たこともあります。また、6cmくらいの大きなカミキリムシやきれいな黄金色のカナブンや見事な牙のミヤマクワガタなど、子どもが見たら大喜びするだろうと思う昆虫にもたくさん出会いました。特に驚いたのは30cm以上もある大きなヤマミミズが側溝や土中にたくさんいた事です。土壌の栄養の豊富さを感じました。ミミズだけでなく蛇のヤマカガシも出ました。桐の木からは薄緑色や茶色の尺取虫がよく落ちてきました。夕方になるとウグイスの美しい鳴き声があちこちから聴こえ、御浄土とはこんな感じかななどと想像したりしていました。

これをお読み頂いた方々には、ぜひ一度でも似島の平和のお花畑にお越し頂き、この地に眠る原爆死没者の御霊に対し御祈りを賜り、また、素晴らしい自然環境に触れ、慰霊とその後には自然浴を併せてご体感して頂ければと願って止みません。

(広島大学原爆瓦発送之会 会長 嘉陽 礼文)

似島を知ろう

似島の「かき養殖」

かきは「海のミルク」と言われるほど非常に栄養価の高い冬が旬の食べ物です。似島のマガキの養殖は昭和25年から始まりました。日本有数の急流太田川から流れ出す栄養豊富な河川水を正面に受け、似島周辺の海域は絶好のかき養殖場となっています。それに加えて、新しい殺菌手法（塩素を使用する通常の方法ではなく、海水そのままの状態で雑菌を死滅させる方法）等で高品質を自慢できる養殖場もあり、各地にブランドものはたくさんありますが、今では“ニノシマカキ”も一つのブランドものとして評価されています。殻付き、生食、フライ、味噌鍋などで、冬の味覚を味わってみてはいかがでしょうか。写真提供：堀口照幸氏



【マガキ】カキ類は世界で120種類くらいあるといわれていますが、中でもマガキは世界各地に広く分布し、日本では北海道から九州まで、アジアでは朝鮮半島、沿海州、中国大陸沿岸に分布しています。市場に出回っているマガキのほとんどは養殖されたもので、広島県が全体の5割以上を占め1位、次いで宮城県、3位が岡山県となっています。

養殖方法はイカダ垂下式と呼ばれるもので内湾にイカダを浮かべ、ホタテの貝殻に穴を開けてワイヤーを通して海につり下げます。養殖は初夏に稚貝を採取し、翌年冬、1年で出荷するもの。また、盛夏に採取して翌年夏を越して2年目の秋、3年目の秋に出荷するものに分れます。



カキの旬は冬といわれますが、これは冬から春にかけてカキのうまみ成分のひとつであるグリコーゲンの含有量が増えるため、このグリコーゲンは肝臓の働きを活発にします。カキのタンパク質に含まれるグルタミン酸、システインなどのアミノ酸は体内の毒素を分解し、放出させる働きがあり、カキの粘液にあるタウリンはコレステロールを低下させる役目があります。また、カキにはEPA（エイコサペンタエン酸）やDHA（ドコサヘキサエン酸）という高度不飽和脂肪酸の含有量が高く、特にEPAは心筋梗塞や脳血栓などの血栓性疾患を予防します。一般に貝類にはビタミンB群が多く含まれ、カキには特にビタミンB2、B12が多く含まれています。これらは造血作用があると言われます。ビタミンB12にはコバルトというミネラルが含まれ、鉄分とともに貧血予防の効力を持っています。さらに、カキには子供の成長に欠かせない亜鉛を含んでいます。

似島を知ろう

似島を花の島に・・・

広島、愛媛両県が共催した博覧会「瀬戸内しまのわ2014」の一環で、平成26年3月23日、似島公民館で「花のシンポジウム」が開催されました。栃木県的那須高原で農業にも取り組んでいる女優の高木美保さんが、「命を感じて暮らす」と題して講演されました。その後、ガーデニングの専門家や植物公園の技師などを招いて、パネルディスカッションが行われ、345名の参加がありました。

スイセンやミモザが自生する似島では、似島を「花の島」にするプロジェクトが進行中で、このイベントに合わせ、似島地区コミュニティ交流協議会チームフラワーのみなさんが、似島中学校南側に「慰霊の広場」として、四季折々の花が咲く広場を整備されたほか、似島港や島をめぐる道端には、100以上の花のプランターを設置して、今も島を訪れる人々を出迎えています。



花のシンポジウム



ワークショップ「花を植えよう」

『知ってる～!?』

似島港を下りて家下地区を散策すると、
かわいらしくて、不思議な看板が・・・
あちこちに点在しているので
見つけてください!!



そう！似島には信号機がないんですよ～。
でも、あったかい言葉で交通ルールを教えてください。

[illegible]

4月ー除草・田植え準備
年間活動計画の検討
5月ー観賞エリア内の草刈、田植え
6月ーヒメボタル観察会
①観察区域内環境整備(取水路整備等)
②星座観察会
③ホタルかご作り
④バウムクーヘン作り体験など
7月ーハイケボタル観察会
9～10月ー稲刈り「秋の収穫祭」
1～3月ー麦踏み・似島ボタルの里通信発行